



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2019～2020年度 RI会長 マーク・ダニエル・マローニー
RIテーマ ローターは世界をつなぐ

クラブテーマ「私たちは風土を大切に守り発展を続けていきます」

会長 山田定男

副会長 加藤正幸 幹事 石井和郎

第1448回例会 2020.6.12(金)雨

司会:田村康晃君 指揮:
ローターソング「我等の生業」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータークラブ

検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 山田定男君

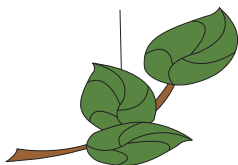


せせらぎ三島RC6月第二回目の例会です。今日も多くの皆様にお会いでき良かったです。

世間では様々な事象が多く、経済・コロナ・法律・政治など考えさせられます。

私は、RCの方々の行動規範としているRIの理念でもあります『4つのテスト』を標準に、自信と誉を抱き行動しております。

過去には世界大戦も起きました。個人一人一人がより良いことを考えながら集団心理行動を見極めようと思っています。



おめでとう

会員誕生日	1月31日	中本豊晃君
	4月17日	渡邊裕介君
	6月4日	伊丹雅治君
入会記念日	3月16日	山口雅弘君



スマイルボックス

藤川智徳君:梅雨入りしましたね。元気に活動していきましょう。

鈴木俊也君:毎日汗だくです。スマイルします。

片野誠一君:皆様、ごぶさたしております。私もコロナ禍生活の余韻がぬけきれていません。これからも宜しくお願い致します。

石井司人君:コロナの抗体検査は6月1日より受託始めました。PCRについてはお一人様18000円ほどかかります。お望みあればオーダーを受け付けいたします。追伸、抗体検査は2500円程度です。

山口辰哉君:「風と共に去りぬ」が動画配信サービスから除外されました。「差別」が原因らしいです。私は、普段「毒」をよく吐く、と言われることがありますが、決して「差別」はしていないつもりです。

小林 勝君:早退します。すみません。

出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回				
今回	23/35	65.71%	会員総数	35名

欠席者

あなたが見えなくて残念でした。

石井(邦)君、遠藤君、小島君、篠木君、杉山(順)君、鈴木(真)君、田中君、土屋君、中本君、原君、山口(雅)君、渡邊君

(*出席免除会員の欠席者)

幹事報告

幹事 石井和郎君

①先日の理事・役員会において、当面の間体温測定を行う事と決定しましたので、ご協力の程、宜しくお願い致します。

原 兄多君

来年度より新設されることになりました未来3035委員会です。

昨年のクラブ「30」周年記念式典において発表した「未来」宣言を「35」周年において実現しようとの思いから、未来3035委員会と名付けました。

そこで、来年度に入る前に、未来宣言「地域の寺子屋になろう！」について、クラブメンバーで共有すべく、あらためてご説明の場を設けさせていただきました。

未来宣言はクラブとして宣言したもので、未来3035委員会のみで実現させるものではありません。

各メンバー一人一人が当事者として、「クラブの未来」を考えていただき、行動していただければと思います。

未来宣言をするにあたり、まず最初に考えたのは、クラブの未来、すなわち方向性についてです。選択肢として2つの方向性が挙げられました。一つはクラブの強みを継続・強化していくこと、もう一つは今まであまり力を入れていなかった事業を強化していくこと(弱みを消していく方向性)です。その結果、やはりクラブの伝統である強み(青少年事業)を継続・強化していくことが、せせらぎ三島ロータリークラブの特色を出すことに繋がるのでは？と考えました。

そこでどのような青少年事業を実施していくべきか？との問いに対し、様々な具体的な意見が出ましたが、個別的・具体的な事業を発表するより、それらの事業を実現するための仕組みが必要ではないか？との考えに至りました。

その仕組みが、

- ①青少年に対する情報発信機能(かわら版)
- ②青少年の悩みを募集する情報受信機能(目安箱)
- ③青少年の悩みを解決する問題解決機能(駆け込み寺)で構成される「地域の寺子屋」です。

青少年に有益な情報を発信し、相談に乗り、そして問題解決する。

このような仕組みを作るには、他の委員会、クラブメンバー全員の協力が必要不可欠です。

30周年において発表した未来宣言「地域の寺子屋になろう！」を実現すべく、メンバー皆様のご協力をお願い申し上げます。

今日の料理



ROTARY NEWS

ロータリーブログから

ロータリーの絆で医師たちが団結

By ジョン・フィリップ

(医療関係者のロータリー親睦活動、会長)

膨大な数のロータリーの仲間が、今この瞬間も途切れることなく、新型コロナウイルスと最前線で闘っています。そこで私たち医療関係者で構成されるロータリー親睦活動グループ(International Fellowship of Rotarian Doctors)も支援に加わり、意見やアイデアを交換して役立てることを決めました。

まず私たちは、世界各地から30名以上のグループメンバーやゲストを招き、2回のオンライン会議を開いて意見を交換し、それぞれの体験を共有しました。

メンバーの話には心を大きく揺さぶられました。多くの仲間が、この困難な状況下で努力に努力を重ね、多くの深刻な患者を必死になって治療しています。自分のリスクを顧みずです。自分を守る防護服・備品の不足、それに治療機器・設備の不備に苦しむメンバーも多く、社会的差別や偏見、患者への悪意ある振る舞いに対処しなければならなかったという経験も寄せられました。

会議ではまた、新型コロナの状況下における末期医療と妊産婦の課題を取り上げました。この世界的な流行により、医療従事者は今までにない困難に直面しています。

圧倒的な死者の数。一つの死から立ち直る時間もなく、次の患者の治療に取りかかることを余儀なくされています。患者の家族は、大切な人を看病することも愛を伝えることもできないまま、想像もしなかった別れの時を迎えます。心の準備も覚悟もなく、そこには慰めも励ましもありません。

妊産婦のケア、とくに緊急のケースでは対応に当たる医師や助産婦も高いリスクに晒されます。麻酔が必要な場合は特別な防護器材が必要になります。分娩室でのパートナーの立ち合いにも実質的な問題が生じます。

多くの医師が過労に苦しみ、わずかなサポートしかない状況で自らを危険にさらしています。今回の会議を通じて、ロータリー世界が医療従事者の献身を誇りとし、無事を祈っていることを伝えることができました。医療従事者のロータリー親睦活動は、メンバーそれぞれが異なる医療分野を専門とする国際的グループです。一人ひとりがロータリー、そしてロータリーの垣根を超えて、人を救う活動に貢献している医療従事者です。

今回のオンライン会議やメールでの交流を通じて、世界中あらゆる場所で活動する仲間たちとのつながりができました。今後もこのネットワークが発展することで、この世界的な危機的状況においても、草の根からの小さな意見や発見、経験をまとめていくことができるでしょう。オンライン会議が行われて以来、治療の選択肢に関する話し合いの機会が増えました。ほかの議題として、出口戦略、予防方法、論理的配慮、デジタル技術(利用するかしないかについて)、それに無症状時からの感染などが挙がっています。